

+ Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学



平成十九年度 入学式

春の訪れを感じさせる陽気の四月五日、修士課程二名、学部一〇九名の新入学生と父母、関係者を迎え、平成十九年度日本赤十字北海道看護大学入学式が挙行されました。

緊張した新入生に向けて、今年度から就任された石井学長からは、赤十字の創設者アンリ・デュナン功績をとりあげ、変化する社会に対応できる鋭い感性と実践力を自らつけることができるようにとの式辞がありました。さらに、日本赤十字学園



新入生代表

理事長大塚義治様および北見市長神田孝次様、日本赤十字社北海道支部伊藤義郎様（事務局局長太田敏夫氏代読）よりあたたかなご祝辞をいただきました。在学生を代表して、自治会長小松由季さんより、「多くの友人を持ち、ありがたうの心を忘れずに大学生活を有意義に過ごして下さい」という歓迎の言葉があり、それを受けて、新入学生代表青山敬子さんが、「赤十字の理念に基づき勉学に励みます」という誓いの言葉を述べました。翌四月六日には、本学アリーナにて学生自治会主催の新入生歓迎会が開催されました。在学生による趣向を凝らしたクラブ活動の紹介やゲームなどで、新入生の緊張をやわらげる楽しい会となりました。

新入生歓迎のことば



学長
石井トク

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

本学は、自然の環境に恵まれ、物的、人的にも多様な資源に恵まれています。特に赤十字の理念である人道と博愛は、本学の看護教育カリキュラムの特徴といえます。自らの可能性を見出すためにも、本学の友人はもとより他の学問領域の学生との交流を通じて、豊かな人間性を培うことを期待しています。

「看護」は古くから存在しますが、「看護学」は新たな学問領域といえます。社会の発展と、科学及び医療技術の急速な進展によって、今世紀は生命科学の時代とも称され、激動の時を迎えています。看護学は人々のあらゆる健康問題を担う生命と生活の質に直結する実践の科学です。社会からの期待も大きくなっています。新入学生の皆様は、自らの社会的役割と責務を認識し、看護に必要な専門知識と看護技術、倫理的態度を身につけるため悔いのない学びをして頂きたいと思えます。

人生には幾つかの節目がありますが、看護学を目指し、本学を選択された決意を忘れずに、看護学を主体的に学び追求することを願っています。

平成19年度入試概況

試験区分	推薦入学試験		一般入学試験	大学入試センター試験利用入試	社会人入学試験
	公募推薦	指定校推薦			
募集人員	35名	10名	45名	10名	若干名
志願者数	49名	6名	163名	113名	10名
受験者数	49名	6名	158名	113名	9名
合格者数	45名	6名	92名	34名	4名
実質倍率	1.1倍	1.0倍	1.7倍	3.3倍	2.3倍

■入学者（出身高校）都道府県別内訳

北海道（99名）・青森県（3名）・岩手県（1名）
秋田県（1名）・福島県（1名）・東京都（1名）
三重県（1名）・大阪府（1名）・沖縄県（1名）

男女別内訳



新卒・既卒者内訳



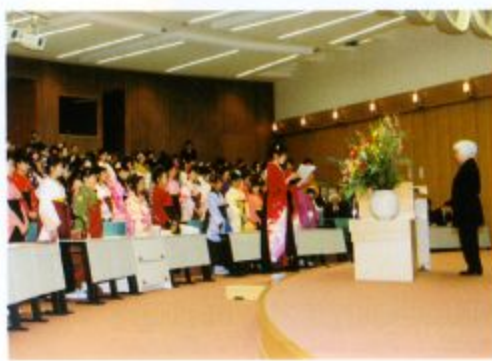
平成十八年度 卒業式

— 大学院生 六名修了 学部生 一〇六名卒業 —

冬の寒さがまだ残る三月十四日、本学講堂において看護学研究所修了式ならびに看護学部卒業式が関係者の見守るなか厳粛に執り行われました。

出席者全員で御歌「四方の国」を斉唱し、続いて、松木光子学長から修士学位記が研究科修了生六名（代表、武田富美子さん）、卒業証書ならびに学位記が学部卒業生一〇六名（代表、山内麻美さん）に手渡されました。

本学の礎を開学から二期八年に渡って築き、今年度をもって勇退される松木光子学長から「人生は常に今から」というプロスキーヤー三浦雄一郎氏の言葉を引用した励ましの言葉が修了生、卒業生に式辞の中で贈られ、大塚義治日本赤十字学園理事長（常務理事八津尾和成氏代読）、神



田孝次北見市長、伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長（副支部長沼田泉子氏代読）から祝辞を賜りました。在学生を代表し清水道子さんが送辞を読み上げ、卒業生を代表し岩崎直美さんが答辞を返しました。

祝電の披露、卒業記念品、花

退職にあたって



学長 松木光子

本年三月で二期八年間の学長職を満了することが出来ました。ひとえに多くの方々のご協力とご支援の賜であり、あつく感謝申し上げます。

本学は平成十一年に北見の地に開学して以来、地元にも馴染んできて、本学への専門的期待が高まっています。これまで教職員は一丸となつて大学基盤づくりをして参りました。ハード面は今春の看護開発センター設立で一応整備出来たと考えます。近未来は各分野で学生と共に内容充実に邁進することが大きな課題でありましょう。学生と教職員は共に健康に留



卒業生代表答辞

東の贈呈と続き、最後に「ぼたるの光」を全員起立で斉唱し、式を無事終了しました。

意され、北の大地で看護と看護学の礎を築かれますよう期待しています。また、関連諸機関や後援会の皆様に一層のご支援をお願い申し上げます。



学部長 ニッ森栄子

平成十一年四月、念願であった日本赤十字北海道看護大学がついに開学し、同時に教員として就任し、以後八年間恙無く職責を果たすことができたのは皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝しております。私は、本学設立準備の創設期から微力ながら携わり、本学の歴史を教職員と学生と共に刻み込んだことを誇りに思っています。

全国各地から本学を目指して入学された学生と共にこの真新しいキャンパスで過ごした日々はいつも新鮮で、躍動感に溢れ、

第5回卒業生の進路について

	道内	道外	合計
赤十字関係	46	14	60
国公立医療機関	0	1	1
大学附属病院	11	6	17
公称各種団体医療機関	12	3	15
進学	5	0	5
行政機関	2	1	3
その他	3	2	5
合計	79	27	106

教職員人事

【退職】平成十九年三月三十一日付

学長 松木光子

学部長 ニッ森栄子

教授 上野美代子

助教授 平山恵美子、平吹登代子

助手 増淵（井上）真子、鳥巢佳佳里

【採用】平成十九年四月一日付

学長 石井トク

講師 板垣喜代子

助手 榎山明子

【昇任】平成十九年四月一日付

助教 田中和子（助手）

【任命】平成十九年四月一日付

学部長 大西章恵

図書館長 大森行雄

学生の熱意と情熱に刺激され、楽しく時を過ごすことができました。

平成十五年度には看護学研究科が開設。十九年度は看護開発センターがスタートします。本学の益々のご発展を心から祈っております。

赤十字関係内訳

【道内】北見赤十字病院、旭川赤十字病院、釧路赤十字病院、栗山赤十字病院、清水赤十字病院、伊達赤十字病院、函館赤十字病院

【道外】日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、名古屋第一赤十字病院、成田赤十字病院、さいたま赤十字病院、前橋赤十字病院、長野赤十字病院、静岡赤十字病院、神戸赤十字病院、高松赤十字病院、【進学先】天徳大学大学院助産研究科、北海道立旭川高等看護学院助産学科

編集後記

残雪が消え、春を実感できる気候となりました。入学式から約一ヶ月経ち、学生達はゴールデンウィークを満喫したよう足取りも軽く、活気に溢れています。

さて、+ Viva Kango 第十九号をお届けします。この号から広報委員会メンバーも一新しております。より充実した誌面作りに取り組み所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第19号

発行日/2007年5月18日
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市藤町664-1
TEL (0157) 66-3311 FAX (0157) 61-3125
mail to: kouhou@chokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp